

厚生科学審議会科学技術戦略策定のための 科学技術政策に関わるヒアリング資料

平成14年5月13日

国立がんセンター総長 垣添忠生

がん研究今後約5年間の課題

1. 対がん戦略の継続・発展（別紙、パンフレット）
2. ゲノム・プロテオーム、情報、再生、ナノ研究等
大型プロジェクトの継続・発展と連携
3. 研究開発における産学連携の推進
 - 分子治療標的研究の推進と創薬
 - 医療機器開発

4. 難治がんの克服
5. 予防・検診研究の強化
6. トランスレーショナルリサーチの推進
7. 臨床試験・臨床研究の推進
8. 研究推進のための人材育成、体制整備

9. がん医療の普及。均霑化のための拠点・
ネットワークの実現

10. がん情報センターの実現

- 国民の理解獲得と専門家の情報共有
- がん対策の評価

11. がん研究・医療における国際協力と貢献

第 3 次 対 が ん 戦 略

「今後のがん研究のあり方に関する有識者会議」で整理、本年12月答申予定

目標

個々人に適した世界最高水準のがんの予防と医療を
国民全体が享受する社会へ

《そのために》

- がんの実態把握に基づく有効ながん対策の実現
- 先端科学技術の導入に基づくがんの本態解明の飛躍的推進
- 基礎研究の成果を臨床・公衆衛生に導入するトランスレーショナル
リサーチの推進
- 最新のがん情報・診療技術を全国に発信・普及

重点研究領域

- がんの実態把握
- がんの本態解明
 - ・生物学的基盤
 - ・発がん要因と機構
 - ・がんの特性
- がんの予防法の開発と実践
- がんの診断法の開発と実践
- がんの治療法の開発と実践
- 社会的取り組み（情報を含む）

重点支援事業

- がん登録等、疫学研究の基盤整備
- トランスレーショナルリサーチ促進のための体制整備
- バイオリソース、データベース等の国レベルの基盤整備
- がんの予防・診療技術の確立とその全国への普及
- 国民へのがんに対する正しい知識と最新情報の提供
- 産官学連携の強化のための体制整備
- 若手研究者ならびに研究支援者の育成と人事交流の促進
- 国際協力、交流の充実

国立がんセンターが何に取り組むべきか

【使命】

中核機関としてがんの克服に取り組む

1. 先端的研究を推進し、新しい有効性の高い予防・診断・治療法を開発する。
2. 新しい医療（予防・診断・治療法）の評価の実現
3. 情報センター・人材育成センターとしての役割
4. 疾病対策における行政との連携
5. 最高のがん医療、予防・検診の提供